
風の魔術師（見習い中）

鏡国有栖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風の魔術師（見習い中）

【Zコード】

Z8408C

【作者名】

鏡国有栖

【あらすじ】

全ての始まり。それは一人の少女との出会い。

第0章 一 青朽葉弥生の話

第0章 青朽葉弥生の話

中学時代・・いや、幼少時代から僕は周囲から疎遠されていた。理由と言えるようなものが有るとすれば、僕自身が「変わり者」だつたことと、僕の家系が古くから村にある「神隠しの家系」と呼ばれるものだった、というところだと思うんだ。

「神隠しの家系」というのは昔々・・・まあこの昔話は長くなるからまた今度。

つまり、簡単で端的にまとめると、僕は周囲から「気味悪がられていた」んだ。

こんな現代にそんなモノが残っているなんてくだらないと思うかもしれないけど、そのときの僕にとってその村そのものが全てであり世界であったワケで。その中で疎遠されるというのは、世界から否定されたのと同じようなことで。だからだろう、僕は内気で消極的で、今にも消えてしまいそうな性格をしていた。

もちろん友達と呼べるような人は居なかつた。

でも、忘れもしない中学1年の4月、あの子に出会つて僕は変わり始めた。

その子は名前を邑上桜華といった。僕と同じクラス（といつても1クラスしかなかつたんだけどね）で、明るい女の子だつた。

そんな彼女は何故か僕と一緒にいてくれた。

不思議だつた。僕と一緒にいてくれる人ができるなんて思いもしなかつたから。それでも僕は嬉しかつた。だつて初めて出来た友達だよ？嬉しくないわけ無いじゃないか。

この頃から、次第に僕は明るくなつていつた。彼女と話して、一緒に居るのが楽しかつたんだ。

でも、同時に不安だつたよ。僕と一緒に居たら彼女まで疎遠されてしまうんじゃないか、ってね。だから僕はある日彼女に聞いてみたんだ。

「ねえ、桜華さん。何故僕なんかと一緒に居てくれるんだい？知ってるだろ、僕が周りから疎遠されてること。そんな僕と一緒に居たら桜華さんまで疎遠されかねないんだよ？」

つてね。そしたら彼女なんて答えたと思う？

「弥生君、私たちは友達よ？僕なんか、なんて言わないで。あと、周りなんか私は気にしてないわ。私は弥生君が好き。だから一緒にいる。他に理由がいる？」

なんて言うんだ。

嬉しかつた、とても。初めて他人から「好き」なんていわれたから。心臓がドキドキしたのを覚えてる。そして僕は言葉を返した。「でも、君が疎遠されたら悲しいよ。君みたいな素敵な人が周りから嫌われていくのはとても悲しい。その原因が僕だつていうなら尚更だよ。」

唇が震えていた。

「素敵な人・・・か。ありがとう。でもね、私は何があつても立ち向かう。弥生君を悪く言うような人がいても、私が守つてあげるから。だから、一緒にいよう。私の居場所を弥生君にも分けてあげるから。」

そう、彼女は答えた。

正直、僕は泣いてしまつた。ポロポロ、ポロポロ、大粒の涙が流れた。それほどに嬉しかつたんだ。

「ありがとう。ありがとう・・・」

僕は「ありがとう」を繰り返すことしか出来なかつた。心がいつぱいだつたんだ。

なんて強い人なんだろう、そのとき僕はそう思つた。そして僕も彼女みたいに強くなりたいと思つたんだ。

そんな出来事があつてから、僕らは前以上に仲良くなつた。そして、中学生活の三年を僕と彼女は一緒に過ごした。

そして季節はめぐり、月日は流れ、彼女は都会の進学校に行くことになつたんだ。

寂しかつたけれど、僕は笑顔で見送つた。そして、僕も自分の道を歩こうと決めた。

僕は日本を旅して、色んな世界を見に行こう。そのときの僕の夢、「誰かを守れるような、強い人間になる」ために。色んな世界の人につれ、色々なことを学ぼう。そして再び桜華に会つたときに、今度は僕が守れるように。

そして、僕は村を出た。

それが、全ての始まりだつたんだろうね。

第0章　一青朽葉弥生の話（後書き）

不定期に連載していく「いつと」思っています。
感想がありましたら連載中でも送つてくださいると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8408c/>

風の魔術師（見習い中）

2010年12月14日18時45分発行